

令和5年 市政10大ニュース

順位	項目	説明
1	自然災害相次ぐ	<p>1月27日から28日にかけて、強い寒気の影響で市全域が大雪に見舞われ、倒木などにより道路が不通となり、佐治町など複数集落が一時孤立状態となりました。</p> <p>7月13日、梅雨前線の南下により、鳥取市青谷町では1時間降水量が観測史上1位を更新するほどの大雨となり、多くの市道等が冠水し、気高中学校グラウンドなどの法面崩落、福部町などで住宅の浸水被害等が発生しました。</p> <p>8月15日、強い台風第7号の影響により線状降水帯が発生し、佐治町では観測史上1位となる51.5ミリを記録しました。市内全域に大雨特別警報が発表され、本市は警戒レベル5「緊急安全確保」を発令し、720世帯、1,934人が避難所に避難されました。</p> <p>この大雨により佐治町など複数集落が孤立したほか、住宅損壊、道路寸断、断水や停電、農業用施設の崩壊などの被害が発生し、激甚災害に指定される災害となりました。本市は、佐治町総合支所に現地対策本部を設置し、ライフラインの応急復旧に取り組むとともに鳥取市災害ボランティアセンターを開設し、多くのボランティアによる生活復旧支援が行われました。現在は、台風第7号災害復旧・復興本部体制のもと復旧・復興を進めており、引き続き、地域や関係機関のご協力をいただきながら、全庁一丸となって迅速な復旧・復興に努めてまいります。</p>
2	コロナ禍を乗り越えて	<p>ゴールデンウィーク期間(9日間)中の鳥取砂丘周辺観光入込客数は170,818人(前年より30,804人増)となり、コロナ以前の水準近くまで回復する結果となりました。コロナ対策が緩和され、好天にも恵まれたことから、鳥取砂丘には国内外から多くの観光客が訪れました。</p> <p>また、コロナ禍の影響で中止や会場変更が続いた鳥取しゃんしゃん祭りが4年ぶりに中心市街地で開催されました。13日の前夜祭では鳥取駅前風紋広場で6団体、152人がすすっこ踊りを披露し、約1万人の観客を魅了。14日の一斉傘踊りでは本通り、若桜街道、智頭街道などを巡る周回コースで82団体、2,138人の踊り子が華麗な傘踊りを披露し、沿道に詰めかけた約20万6千人の観客が踊り子に声援を送るなど、祭りの賑わいが戻りました。</p>
3	鳥取砂丘西側がさらに魅力あふれるエリアに！	<p>4月に西側エリアの拠点として「鳥取砂丘フィールドハウス」がオープンしました。また旧柳茶屋キャンプ場、サイクリングターミナル、こどもの国キャンプ場を一体的に活用し、キャンプ・グランピングを中心とするサービスについての提案を公募型プロポーザルにより選定。事業者を「株式会社ヤマタ鳥取砂丘ステーション」に決定し、令和6年4月開業予定で整備が進んでいます。さらに、旧砂丘荘跡地等へのリゾートホテルの誘致は業界最大手「マリオット・インターナショナル」の最高級ホテルブランド「ラグジュアリーコレクション」に決定。令和8年の開業を目指しています。</p>
4	トスク店舗閉店に伴う買物環境確保等の取り組み	<p>4月のJA総代会において、トスク全店舗の閉店時期と新たな継承先との交渉を進めることが示されました。</p> <p>本市では、トスク移動販売の廃止にともない買い物が困難となるエリアをカバーする移動販売事業者への支援、納入業者が新たな継承先への納入を継続するために行う共同物流への支援をはじめ、ハローワークとの協力による離職者への新たな就職先の支援等の体制を整備し取り組んでいます。9月末には全店舗が閉店し、用瀬店の継承先の検討が継続している状況であるなど、今後も動向を注視し、市民の買物環境確保のため必要な取り組んでいきます。</p>
5	鳥取市・釧路市姉妹都市提携から60周年を迎える	<p>明治時代に鳥取土族が釧路の地に開拓移住したことが縁で、1963(昭和38)年10月4日に釧路市と姉妹都市提携を結んでから60周年を迎え、これまでの交流の歴史を振り返り、今後の交流継続・発展に向けて次世代に引き継ぐことの大切さを確認しました。</p> <p>記念事業の一環として行われた釧路市訪問では、鳥取小学校の児童によるしゃんしゃん傘踊りや鳥取神社など、鳥取の名前や文化が遠く離れた北海道の地で今日まで大切に受け継がれていることや、釧路市の皆さんのふるさと鳥取に対する思いを改めて感じる事ができました。</p>

令和5年 市政10大ニュース

順位	項目	説明
6	新型コロナウイルス「5類」移行後も感染予防対策続く	<p>長引くコロナ禍の中、本市では新規陽性者数が1月上旬に過去最大（664名/日）となり、県、麒麟のまち圏域の市町と連携し、また、職員一丸となって保健所機能を維持しながら、切れ目のない対応を実施してきました。</p> <p>5月8日に感染症法上の2類相当から5類に移行となりましたが、移行後においても第9波といわれるほどの入院患者が継続して確認され、県と連携しウイルス変異の動向調査や相談窓口を設置するなど、対応を継続しています。（5月8日の5類移行まで管内新規陽性者累計58,093名）</p>
7	新可燃物処理施設「リンピアいなば」本稼働	<p>新可燃物処理施設「リンピアいなば」は、令和4年度の試運転期間中に発生した発電用ボイラ設備の不具合箇所を全て交換し、令和5年4月1日に本稼働を開始しました。同施設では、可燃ごみ焼却時に発生する熱を利用した蒸気タービン発電機の活用により、1日あたり最大168,000kwの発電が可能で、施設で利用し余った電力を売電しています。本市は2021年2月に「2050年までのゼロカーボンシティ実現」を宣言しており、脱炭素化推進の一助となることが期待されています。</p>
8	鳥取駅周辺の再生に向け議論はじまる	<p>本市の長年の課題である「鳥取駅周辺エリア」の再生に向け、専門性の高い委員で構成する「鳥取駅周辺リ・デザイン会議」が駅周辺再整備の方向性などの議論をスタートさせました。市民のみなさんの生活に必要な移動手段を守り、快適化していくための多様な交通手段の接続強化を図るとともに、賑わい創出の拠点整備を行うなど、20年、30年先を見据えた新しいまちづくりの拠点として、鳥取駅周辺の最適化を目指します。</p>
9	「脱炭素先行地域」選定	<p>本市の「RE:Birth（再エネ創出）で進める地域脱炭素と地域のRebirth（進化・再生）」の計画が、2030年度までにカーボンニュートラルを実現する全国100のモデル地域の1つとして国の「脱炭素先行地域」に選定されました。取り組みは、若葉台と佐治町の太陽光発電設備や水力発電設備など、各エリアの特徴を生かした地域共生型再生可能エネルギー設備を最大限導入し、エネルギーを地産地消することで脱炭素社会の実現を目指すものです。地域脱炭素と合わせて、再エネを活用したモビリティサービスの導入や防災減災に取り組み、中山間地域の再生・持続モデルを実現し、取り組みを市内全域に広げることで「2050年ゼロカーボンシティ」の達成を目指します。</p>
10	鳥取市民体育館エネトピアアリーナリニューアルオープン	<p>6月3日に鳥取市民体育館エネトピアアリーナがリニューアルオープンしました。新たな体育館は、メインアリーナ等の主要施設を2階とし、洪水などの災害時の緊急避難施設となっています。その他サブアリーナやフットサル場、スケートボード場、コミュニティ広場、トレーニング室など旧体育館にはなかった設備を備えています。開館前の5月21日～27日に開催した内覧会には、市民をはじめとする1469人が来場しました。</p>